

遺跡の保存と学校建設に対する長崎市の考え方

遺跡の保存

(遺跡の保存・活用・継承と歴史的価値の顕在化)

どちらも重要な市の責務

学校建設

(安全安心な教育環境の整備)

遺構の残存状況は良くないが、小島養生所や分析究理所等が近代西洋医学発祥の地として歴史上果たした役割は大きい

現在使用している仁田佐古小学校の校舎は老朽化が進んでおり、耐震化もしていないため、子どもたちの安全安心な教育環境を早期に整備する必要がある

小島養生所の遺構

(体育館側敷地)

- 市の指定史跡として、すべて現状保存する
- 埋蔵文化財の最適な保存方法とされる埋め戻しによる保存を基本とする
- 一部の遺構は露出展示することで、その歴史的価値を伝える

分析究理所等の遺構

(校舎・グラウンド側敷地)

- 埋戻しによる現状保存を基本とする
- 学校建設の支障となる部分は精度の高い記録(3Dデータを含む)を作成し、移設する
- 移設部分は、埋め戻した部分の複製と合わせて、元の姿を彷彿させるように敷地内で再現し、保存・活用を図る

地元住民と6年間にも及ぶ長い時間をかけて協議を重ね、子どもたちにとってより良い教育環境を整備することができるとの判断から、旧佐古小学校跡地を適地として決定した

旧佐古小学校跡地における発掘調査終了後、仁田佐古小学校PTAが実施した新校舎建設に係るアンケート調査では、保護者全体の9割近い方々から回答を得ており、そのうちの8割近くが、現在の計画通りの学校建設を望んでいる

小島養生所等の遺跡の保存と学校建設の両立を目指す

- 発掘調査で検出された遺構については、適切な方法により保存・活用を図り、詳細な記録とともに後世に残す
- 体育館に展示室を併設し、小島養生所等に関する遺構や遺物、資料などを展示する(長崎大学をはじめとする医療関係機関との連携)
- 貴重な情報を発信し、歴史と価値を伝えながら、遺跡の保存・継承を図る